

業務内容に対する技術提案（特定テーマ(1)～(3)）

特定テーマ(2) ■敷地利用計画 近隣施設(瀧原宮)の景観等計画地の周辺環境に配慮しつつ、来庁者や職員等がわかりやすく使いやすい駐車場等の敷地利用計画について
人々の憩いと交流の場となり にぎわいをまちに繋げる敷地利用計画

周辺環境 周辺施設との連携し町民・職員が共に利用しやすい配置計画

・計画地は南東に瀧原宮や道の駅、既存バス停等があり、日常的な往来の他、各種イベント時における連携を考慮し、敷地の東～南側を町民が利用しやすいエリア、西～北側を職員が利用しやすいエリアとします。

・敷地の利用エリアに合わせて庁舎内の機能も配置し、庁舎内外にわたって町民、職員ともに利用しやすい合理的な機能配置とします。【図1】

・複数の配置案を比較検証し、前面道路に対する正面性、近隣施設との連携を考慮した歩車分離、来庁者駐車場と臨時駐車場の駐車台数の確保で優れたC案の配置計画を採用します。【図2】

【図1】周辺施設との関係



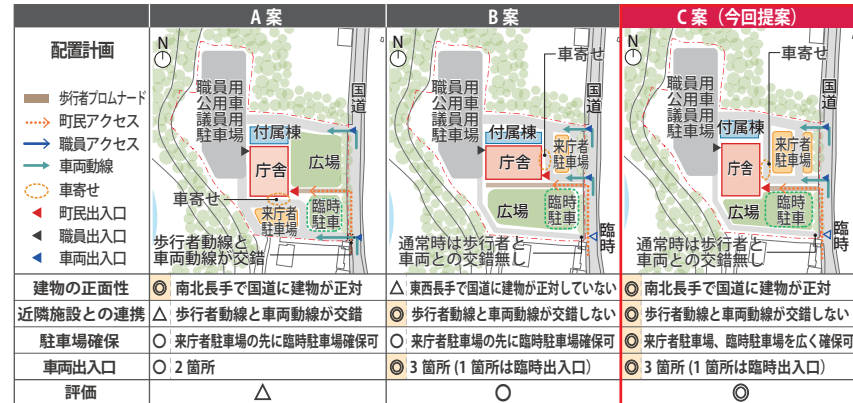
地域景観 大紀町の景観に調和し、地域の中心となる庁舎づくり

・大紀町の山並みの眺望景観に配慮し、国道に面した庁舎の顔に配勾屋根を掛け、山並みと調和したスカイラインを形成します。【図3】

・国道と南側隣家からの後退距離を十分確保し、2階建てまでとして高さを出来る限り低く抑え圧迫感を軽減し、山並みに調和した景観とします。

・国道沿いの既存の並木と築山の樹木を出来る限り残し、杜の中に佇む瀧原宮のように、歴史を重ねた木々と共に未来に繋がる新庁舎とします。

・屋根、庇の軒裏部分とおおやねモール等共用部の内装に地域産材を活用して木質化し、大紀町の木と緑が感じられる庁舎を建屋内外で表現します。



【図2】庁舎配置、敷地利用計画の比較検証

駐車場 来庁者と職員が共に使いやすく安全な駐車場配置と動線計画

・敷地中央に庁舎のエントランスまで続く歩行者用の「たいきプロムナード」を設け、プロムナードの北側に2つの車両出入口を集約することで敷地南側の歩車分離を徹底し、近隣施設との連携を安全に行える計画とします。【図4】

・来庁者駐車場は敷地中央の車両出入口を利用し、ゆとりのある車路幅とすることで全ての利用者が安全に利用可能で見通しの良い計画とします。

・来庁者駐車場は交流機能の充実やイベント開催等による計画増を考慮し、基本構想の想定台数よりゆとりのある台数(39台)を確保します。

・車寄せとバス停留所、車椅子駐車場は屋根付きとして庁舎エントランス前に設け、雨に濡れずに最短距離で庁舎にアクセス可能とします。

・職員用と公用車用、議員用駐車場は敷地北西エリアに集約し、庁舎関係者の利用するエリアと来庁者の利用するエリアを明快に区分します。

・庁舎関係者の車両は敷地北東の車両出入口を利用することで来庁者駐車場の車室前を経由することなく通行可能とし、混雑を緩和します。

・庁舎関係者エリアの最奥に特殊車両等の駐車スペースを確保します。

・駐車場を確保した上で出来る限り既存の築山を残し、掘削量を低減します。



【図3】にぎわい広場でイベントを開催し人々の憩いと交流の場となる庁舎のイメージ

にぎわい まちづくりとにぎわいの拠点となり様々な利用が可能な広場

・たいきプロムナード南側に緑化駐車場を一部に配した多目的広場『にぎわい広場』を設け、イベント時の会場や臨時駐車場としても利用可能とします。【図4】

・来庁者駐車場は防災広場やイベント会場として利用できるよう、車止め等の段差の無い設えとし、にぎわい広場と一体的な利用を可能とします。

・臨時駐車場とする際、緊急時動線の車両出入口を利用することで、たいきプロムナードを歩行者動線として継続利用可能とします。【図5】

・臨時駐車場の全域を駐車場利用する際は来庁者駐車場の車両動線をそのまま延長し、2つの駐車場エリアの一体的な利用も可能とします。



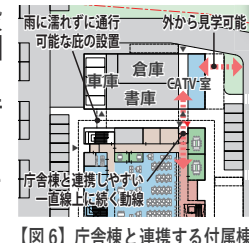
【図5】臨時駐車場の利用イメージ

付属棟 利便性が良く庁舎棟との連携を考慮した付属棟配置

・付属棟は車両動線を挟まずに庁舎北側に隣接し、庇を設けて雨に濡れずに安全に通行が可能な計画とします。【図6】

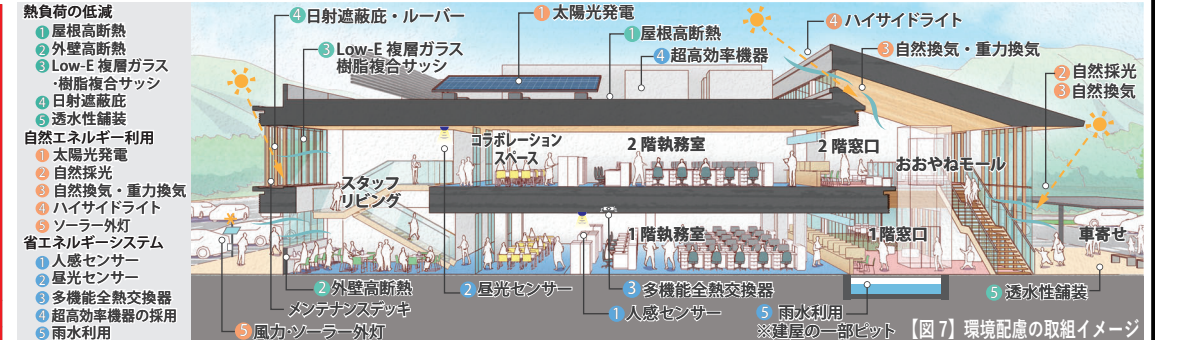
・CATV機能は付属棟に配置することで単独で利用しやすい計画とし、町民モールの延長線上に設け、行き来が容易で庁舎棟と連携にも配慮します。

・庁舎と付属棟をコンパクトにまとめて建屋の東西に広く整形な空地を確保し、各種イベントや災害時に見通しが良く多目的に利用しやすい計画とします。【図6】



【図6】庁舎棟と連携する付属棟

特定テーマ(3) 環境配慮 省エネルギー・省資源を考慮、環境負荷の低減に配慮し、経済的かつ効率的な庁舎整備及び長寿命化を見据えた効率的な改修計画の提案について
環境負荷を低減し、高耐久・長寿命で長く親しまれる庁舎



【図7】環境配慮の取組イメージ

環境負荷 大紀町の気象・風土を踏まえた環境配慮型庁舎

・気候や立地を踏まえ適切な環境負荷低減の取組を実施します。【図7,8】

・庁舎西側に書庫や倉庫、トイレ等の非居室を集約し、開口部を制限し、西日による日射熱負荷を低減します。

・全周に設けた屋根や水平庇、西面ルーバー、外壁の高断熱化により外皮性能を高めて空調負荷を低減します。

・太陽光発電20kwを採用する他、吹抜けをエコシャフトとして活用した自然換気を行う等、自然エネルギーを活用します。

・夏季は大内山川の涼風を夜間に庁舎内に取込み、ナイトパーズ(夜間の自然換気)によって冷房負荷を軽減します。【図9】

・便所や廊下などの照明は、人感センサーによる自動点滅制御とすることで無駄な消費電力を削減します。

水・雨	気温・風	光・日照
多雨な地域 約2300mm/年 (全国平均1624mm)	比較的温暖な気温 山間部の冷え込み 大内山川からの涼風	日照時間はやや短め 約1850時間/年 (全国平均約1900時間/年)
雨水の再利用 親水性塗料による 防汚対策	ナイトパーズ運転 自然通風・換気 風除室の風対策	自然採光の確保 ハイサイドライト 太陽光発電

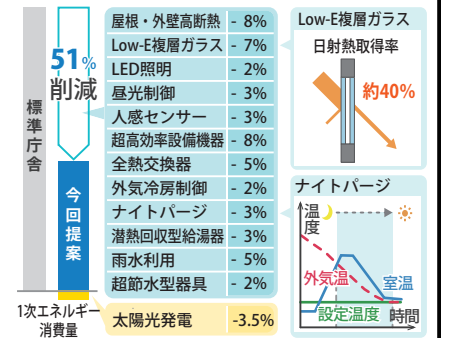
【図8】大紀町の気象風土をふまえた環境配慮の取組

経済性 脱炭素化に向けたZEB Readyの取組とコストの削減

・レジリエンス強化型ZEB実証事業の取組実績に基づき、補助金取得を見据えて確実なZEB化達成を目指します。【図9】

・省エネルギー技術の採用等により一次エネルギー消費量を一般庁舎より約50%削減を目標としZEBReadyを達成します。

・各種の取組により約35%のランニングコスト削減します。



【図9】一次エネルギー削減の導入項目

省資源 内外装の木質化、リサイクル材採用による省資源化

・雨掛りの少ない軒裏部分に地域産材を活用し、屋外のデッキ床は再生木デッキを使用することで省資源化に配慮します。

・庁舎内部は地域産材を利用した木質化を行い、室内の温度変化を緩和し、快適で温かみのある空間を創出します。【図10】

・内外装材や一部の構造体、外構舗装材にリサイクル材を積極的に採用し、省資源化に寄与します。



【図10】地域産材による内装木質化

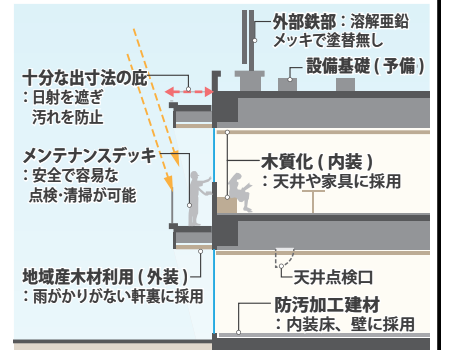
長寿命化 長寿命で維持管理がしやすい庁舎各部の計画

・庇を設け外壁、開口部の汚れ防止を図りつつ、メンテナンスデッキとして安全で容易な点検・清掃が可能な計画とします。【図11】

・設備機器、配管配線は共用部から更新作業を可能とします。

・外装材には光触媒機能を持つ建材や耐候性塗料等、防汚性の高い仕上材を採用し効率的な維持保全を実現します。【図12】

・内装材にはワックスレスの床材や防汚加工の建材、清掃がしやすいディテールを採用し維持管理に配慮します。

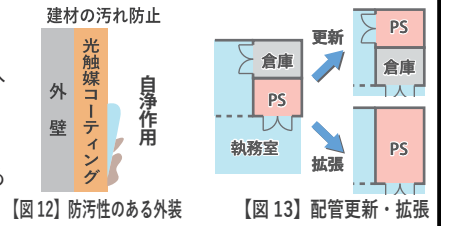


【図11】メンテナンス性に配慮した計画

改修計画 長寿命で維持管理がしやすい庁舎各部の計画

・勾配屋根範囲を建屋東側に限定して屋上に十分な設備機器スペースを確保し、設備機器を集約配置すると共に、将来の機器更新に備え更新スペースと基礎を設置します。

・設備配管スペースは倉庫と隣接して配置し、配管更新の際に入れ替えることで柔軟に拡張、更新が可能な計画とします。【図13】



【図13】配管更新・拡張

増改築 将来的な増改築を見据えた庁舎配置

・庁舎と付属棟はコンパクトにまとめて庁舎周囲に余裕のある空地を確保し、将来の増改築が行いやすい計画とします。